

JR 連合第35回定期大会を開催



6月10日～11日、都内において開催され、満場一致で今後の運動方針が可決されました。会場には、代議員及び傍聴も含め約230人が参集し、貨物鉄産労より、辻村中央執行委員長・和田代議員。貨物連合より、南関東ロジ労組山田委員長が出席しました。

会を代表して挨拶に立ったJR連合荻山会長は、「安全の確立、産業政策、労働政策、組織と労使関係・多様性と男女平等参画の推進、政治活動の5点について述べ

られ、JR連合の全組合員が一致団結し、JR産業の発展と働く仲間の幸せを実現すべく力強く行動することを訴えました。来賓挨拶では、連合芳野会長、榛葉賀津也参議院議員をはじめ、多くのJR連合国会議員懇談会の先生方よりご挨拶を頂戴しました。



代議員による発言では、貨物鉄産労を代表して東海地区本部執行委員和田代議員が、『昨年は、JR産業において危険な事象が多発した。福知山線脱線事故から20年経過したが、あのような大惨事がまた起きるのではないかと危惧しており、さらなる安全への取り組み強化をお願いしたい。組織関係では、2月の中央委員会以降、関西地区本部で1名の拡大ができ改めて感謝申し上げる。新規採用者の加入取組みでは、東海地区本部において、支社前加入行動を東海地協の組合員の方々にもご協力頂き実施し、民主化運動が後退しないよう今後も鋭意に取り組んでいきたい。参議院選挙では、JR貨物が大変お世話になっている榛葉議員が改選となり、比例区森屋たかし議員を含め必勝に向け取り組んでいく。



2027年にアボルール改定があり、JR連合として、貨物会社との意見交換や、旅客会社とのヒヤリング、国交省への要請行動等を行って頂き改めて感謝申し上げます。アボルール改定を解決していく上で、貨物会社には



大きな決断力が必要であるが、JR貨物に「何が必要なのか」「何が足りないのか」「何をどうしていくべきなのか」教えていただきたい』と発言しました。

役員改選では、長年にわたりご活躍された荻山会長(西労組)、政所事務局長(東海ユニオン)、相良組織・政治局長(東海ユニオン)らが退任し、新会長に上村氏(西労組)、事務局長に今井氏(東海ユニオン)、執行委員に谷口氏・榎裕氏が選出され、新執行部体制がスタートしました。